

2023年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

株式会社 ヤギ
(証券コード 7460)

2022年11月11日

将来見通しに関する注意事項：本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

1. 2023年3月期 第2四半期業績

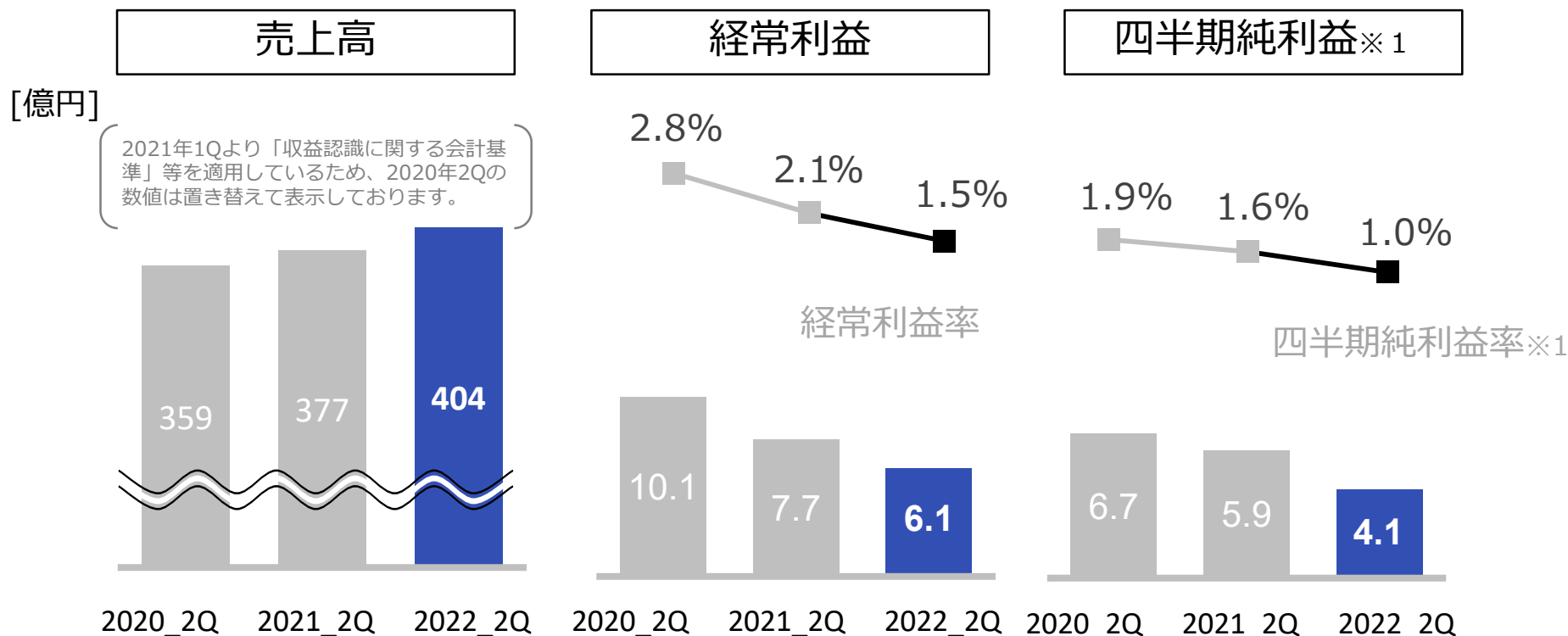
- (1) 2023年3月期 第2四半期連結決算の概要
- (2) 経常利益 増減要因
- (3) セグメント別 売上高
- (4) セグメント別 経常利益
- (5) バランスシートの状況
- (6) 2023年3月期の見通し

2. TOPICS

- (1) VISION 進行中
- (2) サステナビリティへの取り組み

(1) 2023年3月期 第2四半期連結決算の概要

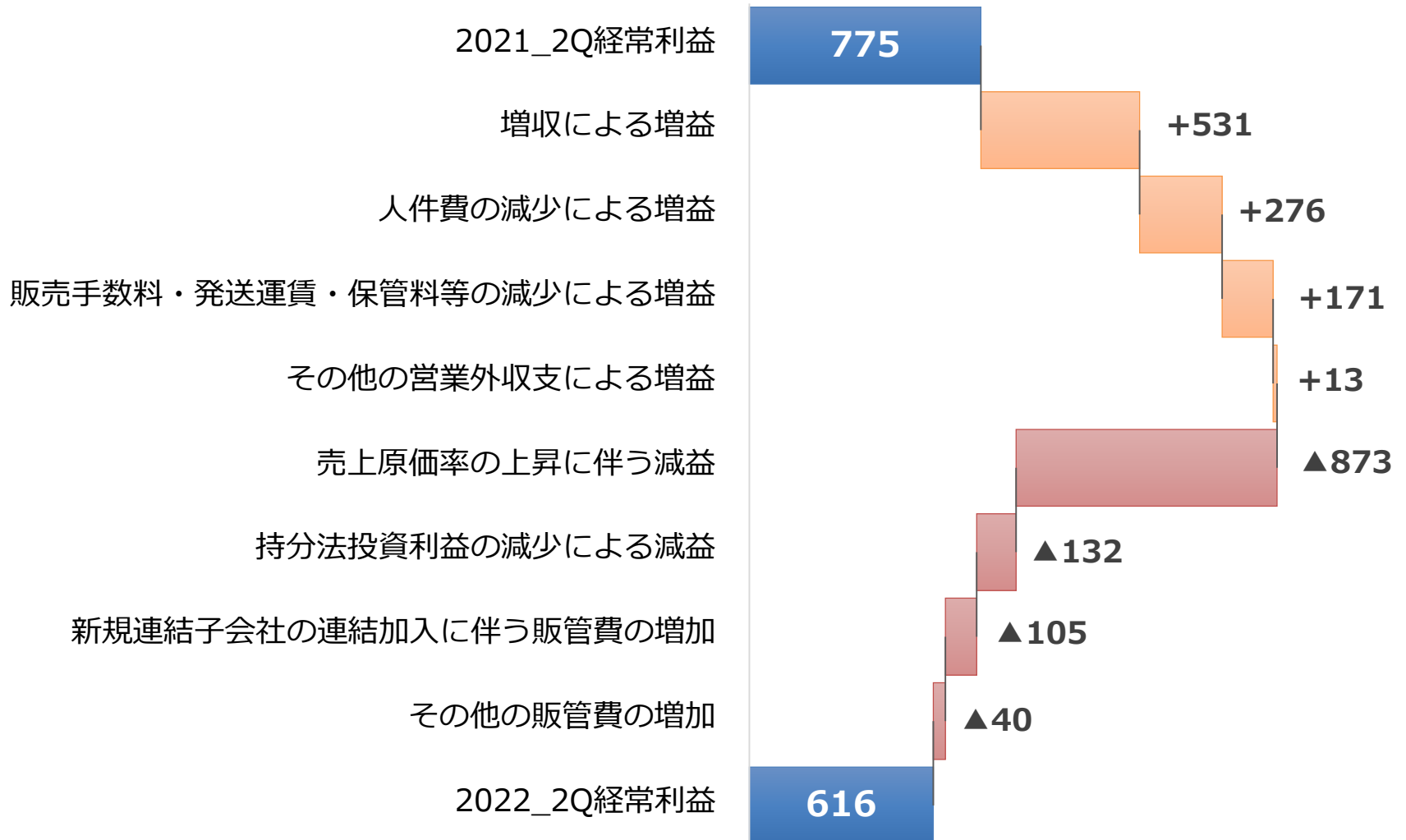
- ▶ 売上高404億円(前年同期比増減+7.3%)、経常利益6.1億(▲20.6%)、親会社株主に帰属する四半期純利益4.1億円(▲28.9%)
- ▶ 長引くコロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、個人消費の持ち直しもあり景気的好転が期待されたものの、世界的なエネルギー価格の上昇、原材料価格の高騰に加え、為替市場における急速な円安の進行によるコスト高の影響を受けたことにより増収減益



※1.親会社株主に帰属する四半期純利益

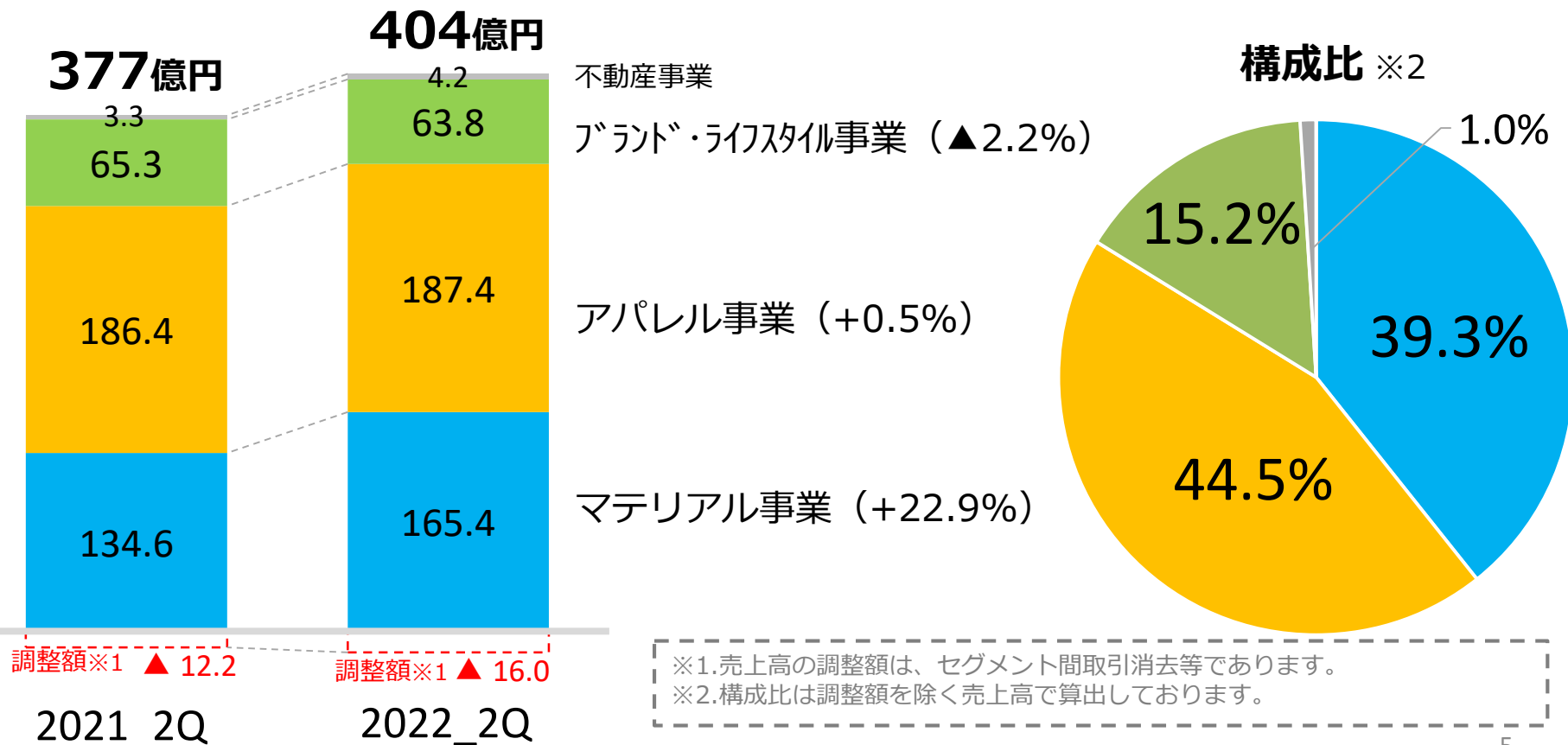
(2) 経常利益 増減要因

[百万円]



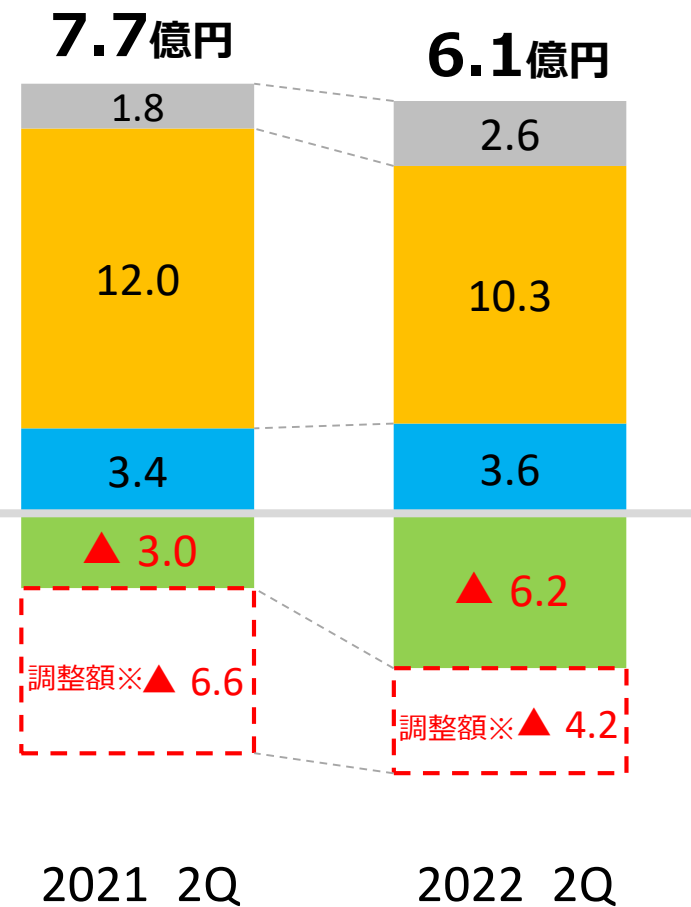
(3) セグメント別 売上高

- 売上高 404億円、前年同期比増減+27.4億円 (+7.3%)
- マテリアル事業は、高次加工糸等の差別化原料や車輻向け合成繊維原料販売が安定的に推移したことにより増収
- アパレル事業は、コロナ禍による影響を受けながらも、人流の回復もありスポーツ商材やアウトドア商材等で復調傾向となったことにより増収
- ブランド・ライフスタイル事業は、秋冬商品販売の立ち上がりが苦戦したため減収



(4) セグメント別 経常利益

➤ 経常利益 6.1億円、前年同期比増減▲1.5億円（▲20.6%）



主な増減要因

- マテリアル事業 3.6億円（前年同期比増減：+0.1億円）**
 - ・天然繊維・合成繊維ともに、リサイクル糸などの環境配慮型素材の引合いは増加傾向にあるものの、原料価格の高騰による販売価格への転嫁が難しい状況
 - ・そのような中でも、高次加工糸等の差別化原料や車輻向け合成繊維原料販売に関しては比較的安定に推移したことにより増益
- アパレル事業 10.3億円（▲1.7億円）**
 - ・コロナ禍での行動規制の緩和から、スポーツ商材やアウトドア商材等では回復基調
 - ・通販・量販向け商材でも一定の売上を確保したものの昨年規模までの回復には至らず、原材料・燃料価格の高騰や急速な円安により輸入コストが上昇したことにより減益
- ブランド・ライフスタイル事業 ▲6.2億円（▲3.2億円）**
 - ・生活雑貨や資材を取り扱うライフスタイル事業においては、原材料や加工で差別化を図った高機能資材などの販売が堅調に推移
 - ・一方、ブランド事業においては、通期収益の中心となる秋冬商品の卸販売において、実需に基づいたデリバリーに変更したため下期での計上となり、生産等に係る諸経費が先行したことにより減益
- 不動産事業 2.6億円（+0.8億円）**

※セグメント利益または損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引消去等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(5) バランスシート状況

- 現金及び預金は前期末比増減▲19億円
- 自己資本は+9億円（株主資本は+3億円）
- 自己資本比率は49.6%（前期末比▲4.2pt）

[億円]

2022年3月期末

総資産 647億円

現預金 68	他負債 201
他流動資産 333	有利子負債 94
たな卸資産 90	株主資本 336
固定資産 154	
その他の包括利益累計額合計 10 非支配株主持分 4	

純資産
351億円

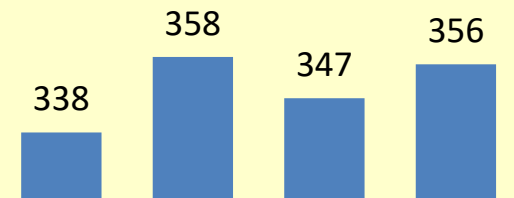
2023年3月期第2Q末

総資産 720億円

現預金 48	他負債 238
他流動資産 394	有利子負債 125
たな卸資産 115	株主資本 340
固定資産 162	
その他の包括利益累計額合計 16	

純資産
356億円

自己資本



2019末 2020末 2021末 2022_2Q末

	2021末	2022_2Q末
自己資本比率	53.7%	49.6%

(6) 2023年3月期の見通し

■ 2023年3月期通期業績予想及び配当予想

➤ 業績予想

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益※	1株当たり当期純利益
790億円	20億円	22億円	11億円	132円11銭

➤ 配当予想

第2四半期末	期末	合計	※親会社株主に帰属する当期純利益
	48円00銭	48円00銭	配当性向
			36.3%

※上記の業績予想及び配当予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 今後の方針

中期経営計画「MAKE A DREAM, 1+∞」の最終年度である当期は、「経営体制の高度化」「事業ポートフォリオの最適化」「次世代事業の創出」「サステナビリティの着実な実行」の4つの重点施策の総仕上げに取り組んでおります。一段と厳しい事業環境が続く中、コスト削減を強化しつつ、これからの社会環境変化を見据えて、サステナブル領域などの成長分野への経営資源投入とグループ経営体制の高度化や繊維のDX関連企業であるswatchbook社との資本業務提携を行うなど、カーボンニュートラルへの貢献と利益獲得の追求に努めてまいります。

- **マテリアル事業**：原料相場の高騰に対応するため、差別化素材としてオーガニックコットンの多品種取り揃えや、合成繊維糸の多様な高次加工化を図り、「Unito Organic (ユナイトオーガニック)」や「Natureel (ナチュリール)」といった差別化原糸のブランディングを強化しています。更に、SDGsを意識したリサイクル糸やケミカルリサイクル糸の取り扱いを増やし、原料から製品までのグループ内での一気通貫を展開してまいります。
- **アパレル事業**：原材料価格や物流経費の高騰と急速な円安の進行により、生産・販売面で非常に厳しい状況が続いておりますが、引き続き主要仕入先との連携を深めコストを抑えつつ、優良販売先との取り組みを強化します。また、ご好評をいただいているテキスタイルECサイト「Fably (ファブリー)」をはじめとして、業界内外や国内外に向けて新たな価値を提供するデジタルプラットフォームへの発展や、SDGsに対応した取り組みを強化してまいります。
- **ブランド・ライフスタイル事業**：ブランド事業においては、社会、顧客からの信頼と共感を高めるためにサステナブル素材の取り扱いを増やし、地球環境に配慮した取り組みを進めることでグローバルに認知されるブランドへ成長させていきます。ライフスタイル事業においても、エシカルの価値観にいち早く応えるために、より環境に優しく美と健康に寄り添った商品開発をグループ一丸となって進めることや、EC強化による更なる販売拡大を目指します。

2. TOPICS

- (1) VISION 進行中
- (2) サステナビリティへの取り組み

(1) VISION 進行中

当社グループのあるべき姿や未来に向けてのイメージを社会に向けて共有していくため、本年1月に新しく「VISION」を策定いたしました。

VISIONの実現に向け、まずは社内での取り組みを進めており、VISIONに基づき、様々な角度で組織貢献した課・個人を表彰するための表彰制度の見直しや、社内報を活用したVISIONに関する企画の実施等を行っています。VISIONの中にもある、「健康でイキイキと働く環境を構築する」の実現に向けて、社内の健康経営推進体制も発足いたしました。

当社グループ従業員全員が、自分の言葉でVISIONを語るができるように、今後、様々な形で浸透させていきます。そして、このVISIONを基に、社会と共通の課題解決を目指した取り組みを進めてまいります。



VISIONに対する取り組みの具体例

➤ 表彰制度の見直し

「仲間同士がたたえ合う」風土の醸成に向けて、組織活性化や従業員のモチベーションアップにつなげることを目的とした表彰制度を新設しました。

➤ 昇格制度の見直し

健康で多様な人材の活躍を支援し、変化の激しいグローバル環境下において成果を上げ続けられる人財を育成していくため、年齢や勤続年数ではなく、成長し続ける人を評価していく仕組みへの見直しを行いました。

➤ 副業制度の運用開始

自由な働き方を選択できる環境づくりと、副業経験を通じた視野・スキル・人脈の拡大を当社の持続的な成長へとつなげていくため、副業制度の運用を開始いたしました。

➤ 社内報でのVISION関連企画の実施

従業員のVISIONに関する理解を促すため、VISION策定に直接携わった経営層へのインタビュー企画などを実施し、VISION策定の背景や今後の展望など、社内報を通して従業員に伝えています。

(2) サステナビリティへの取り組み

オーガニックライフスタイルEXPO 2022に YAGIthicalとして協賛・出展

2022年9月16日～18日にかけて開催された「第7回 オーガニックライフスタイルEXPO 2022」に、当社のサステナビリティ推進への取り組みに向けたプロジェクト「YAGIthical」が協賛・出展いたしました。

当社で取り扱うオーガニックコットンを使用したタオルやアパレル製品等を中心に、環境配慮型商品の販売を行ったほか、NPO法人DEAR MEと共に取り組む、企業とZ世代との協働によって持続可能な未来の共創を目指す「Timeless Worth Project」（以下、TWP）で企画した、規格外品タオルのアップサイクルミニタオルもプロジェクトの紹介と共に販売しました。

当社のTWP公募メンバーと、NPO法人DEAR MEの学生メンバーもブースに立ち、グループ会社ツバメタオル社での工場見学から始まったアップサイクルタオル企画の経緯や、環境に配慮した生産背景などを直接お客様に説明させていただく貴重な機会となりました。



オーガニックライフスタイルEXPO 2022
YAGIthicalブースの様子

PBP YARN PROJECTを通じた支援が前進

当社は、一般財団法人PEACE BY PEACE COTTONに理事として参画し、インド産のオーガニックコットンを使用したアイテムに基金をつけて販売し、現地で生産者支援を行うNPO（非営利団体）のチェトナオーガニック（現地支援団体）を通じて、農家の有機農法への転換支援や子どもたちの就学・奨学を支援しています。

2021年度に積み立てた寄付金は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による収入の減少で、綿花種子を購入する余裕のない農家世帯2,000軒を対象とした、非遺伝子組み換え綿花種子の配布に充てられました。また、有機農業を継続するための支援として、種子の処理方法の説明会も行われました。

この支援のおかげで、綿農家の方々は、今年度も綿花の有機農業を継続し、有機農家資格を保持することができ、チェトナオーガニックを通じた市場での綿花の買い取り価格は、過去最高となりました。



インド支援地域での綿花栽培の様子